

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立豊中支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	1 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 2 近隣施設・地域住民の方々からのアンケート調査における満足度の向上
計画名	豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、防災時にも役立つ教育環境整備)

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 児童生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた支援を充実させるための、教員の専門性及び授業力の向上</p> <p>(4) 学校生活全般において、合理的配慮の視点に基づき ICT やユニバーサルデザインを活用し、児童生徒に有効な支援の工夫に努める。</p> <p>3 児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安全で安心な学校づくりの推進</p> <p>(2) 防災・防犯計画及び大規模災害時における対応マニュアルの点検・見直しや必要物品の充実等、地域やPTA と協働して防災体制の確立を図る。</p>	
事業目標	<p>災害発生時に備えて、防災、減災グッズを授業に活用し日常化することで、自らの命を守り抜く「自助」のための「主体的に行動する態度」を育成し、保護者との「共助」で非常時も安全で安心な学びの場を創造する。</p> <p>① ミラリスピーカー（音のバリアフリースピーカー）の使用で、今までのスピーカーではできなかった児童生徒の聞こえの難しさを軽減し、主体的に授業や行事、非常時の心の安定を図れるよう環境整備を進める。</p> <p>② 日常の授業や、PTA 活動で発電機、ポータブル電源、各種テント、超短焦点プロジェクターなどを活用し、非常時に必要となる物品を普段使いできる学習環境の整備を構築する。</p> <p>③ マッスルスーツを高等部の授業に取り入れ、生徒と教員が共助して活動できる経験を重ねる。</p> <p>④ 簡易テントでパーソナルスペースを設定し、日常的に心の安定を保てる体験を重ねる。</p> <p>⑤ サマーイベント、PTA バザー、引渡し訓練において、地域、事業所も巻き込んだ防災啓発・防災グッズ体験をはじめシミュレーション訓練を実施する。</p> <p>⑥ PTA と協働し、校内に「安心ゾーン」を設定し、減災につながる環境整備を始動する。</p> <p>⑦ 府下知的障がい児支援学校における防災実践の実践例として、研究紀要や学校ブログを通じて情報発信する。</p>	
整備した 設備・物品	<p>●消耗需用費</p> <p>LACITIA ポータブル電源 エナーボックス (2)</p> <p>SONY ワイヤレススピーカー SRS-XB21 (12)</p> <p>山善エアベッド PAH-001FP (6)</p> <p>CAPTAIN STAG ワンポールテント (4)</p> <p>CAPTAIN STAG ポップアップシェルター (4)</p> <p>ニトムズ 窓ガラス飛散防止シート (30)</p>	<p>サンワサプライ bluetooth レシーバー (4)</p> <p>Sandony bluetooth ワイヤレスマイク (6)</p> <p>鍵付き管理ロッカー (1)</p> <p>ヨガマット 10mm (5)</p> <p>●備品購入費</p> <p>SoundFun! ミラリスピーカーMBY セット (4)</p>

	ルミキャップ 蛍光灯カバー (68) DAYTONA ガソリン蛍光缶 (1) Panasonic ポータブルワイヤレス送信機 (1) SENA SPH10 インカムヘッドセット (4)	マッスルスーツ Edge (1) Honda 発電機 EU26i (1) SONY XperiaTouch G1109 (2)
取組みの 主担・実施者	主 担：安全安心 HQT ホットと PT (首席2名・指導教諭・教諭5名)、PTA 保健・防災委員会 実践者：授業プランナー、各行事チーフを中心とした全校教職員	
本年度の 取組内容	<p>◎初年度経過 (導入実践)</p> <p>7月：PT 発足 10月：整備物品の使用法の全校周知 10月：文化の集い「ゆめ水族園」での導入 EPSON 社の社会貢献事業を活用した行事展開にてワンポールテントを展示した。</p>  <p>11月：追加購入物品購入 12月：PT メンバーによる整備物品の活用 12月：実地調査、PTA 保健防災委員会との打ち合わせ 小学部5年生音楽の授業にて、超短焦点プロジェクター及びエアベッドを使用し、リラクゼーションメニューとして活用した。</p>  <p>1月：研究紀要へのまとめ報告 2月：PTA 保健防災委員会との打ち合わせ</p>	<p>◎ミライスピーカーの活用実績 (全校的な行事)</p> <p>10月：初任研究会校 10月：文化の集い「ゆめ水族園」 11月：学習発表会 12月：中学部学部集会 1月：近知研究会校 1月：高等部学部集会 1月：実践交流会 2月：全校集会 3月：卒業式</p> <p>日々の授業でも多くの活用実績を重ねて展開することができた。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>成果の検証方法</p> <p>【保護者】 学校教育自己診断による防災に関連した設問の満足度の向上。 【教職員】 防災意識に関する設問を新設する。 【対象生徒】 今年度から中学部、高等部生徒を中心に実施する「学校生活アンケート」において防災に関連する設問を設け、防災への関心度を把握する。</p> <p>評価指標</p> <p>保護者・教職員の肯定的評価が60%を超える。中学部、高等部生徒の防災感覚を把握する。</p>	
自己評価	<p>学校教育自己診断 (初年度評価)</p> <p>① 学校教育自己診断による防災関連肯定的評価が保護者・教職員ともに60%を超える。 【教職員】 わたしは、学校防災に対しての意識が高まっている。…………… 評点 72.4 (○)</p>	

	<p>【保護者】 学校は、防災や防犯についての取り組みを適切に行っている。・評点 90.1 (◎) 学校は、地震や台風、大雪などの災害時に適切な対応ができている。 評点 86.0 (◎)</p> <p>② 今年度から実施した「学校生活アンケート」において対象生徒の防災への関心度を把握した。 【対象生徒】 先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてくださいか。 評点 84.4 (◎)</p> <p>結果・考察 学校教育自己診断内の防災に関連した評価において、目標指標として設定していた肯定的評価 60%以上は全ての設問において目標達成することができた。対象生徒（中学部 30 名、高等部 56 名）および、保護者評価は 80 点を超えた高い評点であり、防災への意識、関心の高さが読み取れる。教職員の意識を高める仕組みを次年度以降の活動テーマとして設定できると評価、考察することができた。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>初年度の物品購入手続きと並行して校内での活用を推進するなかで、不足が生じた物品や、新たに必要になってきた物品が発生したため、追加購入手続きを進めることとした。ミライスピーカーを同時に複数台使用する場合に使用する拡声機器や、ハンズフリーで使えるようになるワイヤレスヘッドマイクも追加購入することにした。次年度は更に利便性を高めたミライスピーカーを中心に、購入物品を授業内外でより多くの機会に活用できるよう PT メンバーを中心に『活用方法』を周知し、児童生徒、教職員それぞれが防災の意識を高めることができる 1 年にしていきたい。合わせて、地域に開かれたイベントでの活用や、児童生徒の実態に応じた外部機関との連携（防災に係る出前授業等）の機会を模索し、特色ある学校経営の一助となる活動を企画し、発信したい。</p>